

ひらた まさのり
平田 雅則

労働組合を強くしよう!!(Ⅱ)

●情報労連・副中央執行委員長
(NTT労組中央本部・事務局長)

2017年(酉年)のスタートにあたり、会員組織の皆様方にとって、実り多き1年となりますことを心からご祈念申し上げます。

本誌出筆にあたって、事務局から「テーマは社会や労働組合のこと等、日頃考えていること何でも良い」との依頼。「新年」なのでなおさら悩みましたが、最近、考えているいくつかの事柄をストレートに述べたいと思います。

1つは「2017年は、どんな年になるのか」、2つは直面する「2017春季生活闘争(以下春闘)にどう対応するか」、3つは「労働組合を強くするためにどうするか」です。

2017年の展望!?と課題認識

世界に目を向ければ、1月中旬に予定されるトランプ次期米国大統領の就任以降、新たな経済・金融をはじめとする外交、安全保障、労働者に対する政策などがどう打ち出されるのか。それが、日本の政治・経済等にどう直接的に影響を及ぼすのかが大変注目される所です。

加えて、EU圏においても、昨年6月の国民投票による英国のEU離脱以降、ポピュリズム(大衆迎合主義)の台頭や難民問題の対応等をめぐって、先行き不透明な状況が続いています。こうした中、今年、実施される①オランダ(3月頃)、②フランス(4~5月頃)、③ドイツ(9月頃)——等の国政選挙の結果がどうなるのか、さらにそのことによって、世界的潮流がどうなるのか。

これらのことが、アジア、とりわけ日本の政治、経済・金融政策等にどんな影響を及ぼすのかに注目していく必要があります。

一方、超少子高齢化と人口減少という日本の足もとの課題に目を転ずれば、「相対的貧困率」が先進国で6番目に高いことや、所得格差を示す「ジニ係数」が9番目に大きい状況にあり、子どもや若年層の「貧困」は深刻な社会問題となっています。さらに女性や高齢者にも「貧困」が拡大していると言われており、共働きが増えているのに年収400万円以下の世帯が拡大している現状は、将来の「不安」をさらに拡大させています。

さまざまな社会的問題を抱える日本で、もう1つ、正規と非正規の雇用形態間に代表される「格差」の一層の拡大が危惧されています。

2017春闘に向けて

このような社会的情勢等の中で取り組む「2017春闘」ですが、既に、各産別・単組では、昨年11月に決定した「連合2017春闘方針」をふまえ、「2017春闘方針(案)」の策定が佳境を迎えていることと思います。連合は、今次春闘に取り組むにあたって、私たち労働組合が社会・経済の構造的な問題解決をはかる『けん引役』を果たす闘争であると訴えています。

私たちは、連合方針にある「経済の自立的成長」「社会の持続性」を実現するためにも、すべての働く者の賃金の「底上げ・底支え」の実現が不可欠との考え方をもって、組合員



への理解・浸透とともに有期契約社員等（非正規）の「底上げ・底支え」を強く意識しながら、2017春闘に取り組まなければならないと考えています。

最近、究極的には、“働くすべての組合員・社員の年収を最低300万円以上に引き上げる取り組みが必要”と思うようになり、そのことが、労働組合が果たすべき「社会的に価値ある労働運動」における最重要課題なのではないかと考えているからです。

また、春闘における「要求」実現に向けた会社側との団体交渉等の取り組みは、組合員の労働条件の向上をめざすことはもちろん、「組合員と組織」および「組織と組織」の信頼感の醸成と組合役員の人財育成にもつながる「組織強化」の取り組みそのものであると考えています。2017春闘の取り組みを通じて1歩でも2歩でも次代に繋げていきたいと思っています。

組織強化に向けて

世の中の的には、労働組合の組織率の低下が続いている昨今。自組織においても、組織拡大の取り組みで有期組合員が拡大しているものの、それを上回る組合員の退職によりトータルの組織人員は年々減少しています。加えて、この組織人員の減少等に伴い、運動・活動の源泉である組合費収入も減少の一途を辿っています。このことは、これまでの運動や活動、組織体制に対する見直しなどを余儀なくされるものであり、諸先輩方から受け継い

できた財産に配慮しつつも、具体的方向性を示さなければならない「待ったなし」の状況になっています。

どうやったら組織強化を図りつつ、運動や活動の見直しを進め、組織改革を図ることができるのか。2017年の組織的テーマ（課題）でもあります。

いずれにしても、直面する困難な課題を真正面から捉え、いまを生きる組合役員の一員として、未来に向けた責任を果たさなければならないと思っています。日々の地道な活動を通じたOJTによって魅力ある次代の人財育成を続けていくことが、必ず「組織強化」につながると信じて…。

終わりに

結びに、最近、何か悩んだときに読むのが、情報労連・NTT労組の大先輩である故山岸初代連合会長の『遺作集』です。その中に「現役の労働組合役員の方々に言っておきたい。それは、労働組合は、何のためにあるか？この当たり前のことを忘れないで欲しいということだ…」。また、「労働運動は『過去があり、現在があって、未来がある』のだ」との訓辞があります。

この言葉に込められた意味をよく考え、次代の運動につなぐためにも「組合組織を強くしていく」という自らの“夢”を追いかけて、今後の運動・活動にまい進していきたいと思っています。